

石川県立図書館報

いしかわ

No.314

(平成 27 年 3 月)

編集・発行

石川県立図書館

〒920-0964

金沢市本多町 3-2-15

TEL 076-223-9581

FAX 076-222-2531

<http://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/>



開会式 (中能登町教育委員会教育長 挨拶)



基調講演

平成 26 年度 石川県図書館大会 記念講演

「地域とつながる図書館」

講師 内野 安彦氏(常磐大学、松本大学松商短期大学部、熊本学園大学非常勤講師)

平成 26 年 11 月 5 日 (水)、生涯学習センター「ラピア鹿島」で「石川県図書館大会」が開催されました。本年度は、「図書館へ行こう ～地域に根差した図書館～」という主題のもと、図書館職員や読書会会員、子ども文庫関係者など 135 名が参加しました。

記念講演では、内野安彦氏に「地域とつながる図書館」という演題でご講演いただきました。

まず、図書館の世界の中で、ネットワークとコミュニケーションは重要な要素であり、そのつながりが大切であることを述べられました。

そして、図書館とつながっている 8 つの要素、行政 (職員)、議会 (議員)、学校、報道機関、県・

市町村、図書館、書店、その他について、それぞれの意義をわかりやすく説明されました。

次に、図書館と地域がつながる取り組みについて、塩尻市立図書館などを例に紹介されました。塩尻市立図書館では、近隣の図書館と連携して J リーグの松本山雅 FC を PR する企画を立てたり、展示ケースを市民に提供してミニカーのコレクションの展示を行い、車に関する本を近くに置くことで、展示を見に来た人にも本に興味を持ってもらうなどの取り組みをしているということでした。

最後に「図書館は電気や水道と同じようにはならないものだ」という言葉を紹介され、講演を締めくくられました。

目次

- 1 頁 石川県図書館大会 [記念講演]
- 2 頁 石川県図書館大会 [第 1 部会] [第 2 部会] / 第 11 回 ビブリオバトル
- 3 頁 資料紹介② / はじめての古文書 / 講座「加能史料」はいま
- 4 頁 新幹線がやってくる! / 「図書館活用講座」出張所⑦ / 原田マハ講演会 / 石川県子ども読書月間

—第1部会—

「これからの高齢者サービス」

第1部会では、大阪教育大学教育学部教授の堀薫夫氏による講義がありました。

はじめに、現在日本では65歳以上の人口が全体の25%を超えており、その8割は健康であるという状況を説明されました。そして、年齢を重ねることは、視力の低下などマイナス面がある一方で、知見が開かれるなど、熟成と表現されるようなプラス面もあることを指摘されました。



続いて、高齢者の読書に関する特徴を取り上げ、高齢期に活性化される読書のあり方について解説され、高齢者が図書館利用の多数派となっていることを述べられました。

また、高齢者サービスの取り組みとして、地元の古い写真などを用いて思い出を語り合い、世代間交流も行われる「暖炉の部屋」という島根県斐川町立図書館の事例を紹介されました。

会場からは、「高齢者の中でも年齢差があり、どういったサービスが望まれるか」といった質問があり、身近な課題として意識されていると感じました。

—第2部会—

「子どもを図書館に呼び込むしかけ」

第2部会では、まず白山市立松任図書館の窪田和恵氏から、白山市の他部署やボランティア団体と連携して行った事業の紹介がありました。



さらに、連携した団体や来館者に「自分たちの図書館」という認識を持ってもらうことが、図書館の利用増加につながるのではないかと述べられました。

次に、かほく市立中央図書館の小村和代氏が、小学校との連携事業を報告しました。学校の授業の一環で図書館を訪問してもらうことで、児童が図書館の使い方を知り、個人的に利用するきっかけとなるとまとめられました。

宝塚市立西図書館の野村京子氏からは、多彩なイベントの実践が紹介されました。企画を考える際には、利用者といかに楽しくつながっていくかを常に模索していると話されました。

ユニークな事例発表の連続に、会場からは感嘆の声があがりました。参加者にとって、他機関と連携した今後の児童サービスを考える、充実した部会となったようです。

第 11 回ビブリオバトル～心があたたまる本～

12月21日(日)に第11回ビブリオバトルが開催されました。今回のテーマは「心があたたまる本」で、6名の発表者のうち、5名が高校生で初々しさが感じられるビブリオバトルでした。

チャンプ本には東瑠香さんが紹介した『頭のうちどころが悪かった熊の話』(安東みきえ作、理論社 2007)が選ばれました。東さんはこの本の楽しさを明るく元気に紹介し、観覧者の支持を得ました。

なお今回はスペシャルゲストとして高校生ビブリオバトル全国大会北陸地区代表の西野光柚さんが『夜叉ヶ池』(泉鏡花作 講談社 1979)を堂々と披露し、参加者の心を掴んでいました。

3月15日(日)開催予定の次回ビブリオバトルは、高校生大会です。高校生のフレッシュなバトルが見られることでしょう。まだビブリオバトルを体験したことがない方、ビブリオバトルを始めようかと思う方、是非お集まりください。



資料紹介⑳ 加賀国菊酒考

富田景周 著 文政6年(1823) [K588/3]



鶴来村の村民達が、手取川の水を汲んで運んでいる図

『太閤記』には、秀吉が晩年に行った醍醐の花見で、諸国から集められた名産品のなかでも、名酒の第一番に加賀菊酒をあげている記述が見られます。「菊酒」は、古い記録では、室町時代の公家の日記や謡曲「安宅」にまでさかのぼることができます。しかし、加賀のどの地域で造られたものかが、はっきりしておらず、それを明らかにしようとしたのが富田景周です。

景周は、『越登賀三州志』をはじめ、加賀藩の地理歴史に関する著作を多数残した人物です。

景周により文政6年(1823)に書かれた本書は、22丁からなる和綴じ本で、上の図からは、手取川での酒造りの様子が伝わります。この図のほかに、犀川を描いた図があるのは、手取川と犀川のどちらの水を使って造られた酒を「菊酒」とするかを考察しているためと思われます。

本文では、菊理姫が祭神である白山比咩神社の近くを流れる手取川とする説と、菊が嶽に自

生する菊の滴りが流れているという伝承から、菊水川とも呼ばれる犀川とする説があげられています。しかし、どちらの説をとるかを決めきれず、

「菊酒は加賀こが國の酒の美称なり」とし、加賀産の名酒を賞揚して「菊酒」と呼ぶと論じ、その場所は特定されません。

また、本書を解説したものとして、『加賀国菊酒考解説』(山森青硯・石井久二郎共編 山森青硯1968)があり、本書の翻刻も掲載されています。

平成26年度 講座

はじめての古文書～古文書解説入門～
閉 講

約半年間にわたり続いた本講座も、12月2日(火)の閉講式をもって終了しました。今年度は昼コースに61名、夜コースに37名が受講され、計67名の方々に修了証書が手渡されました。

最終日の講義では、東京大学史料編纂所教授の佐藤孝之氏が「能登人と上州～古文書にみる交流の一齣ひとこま～」と題し、能登国鳳至郡和田村(輪島市門前町)の漆搔しすかが、漆の産地である上野国甘楽郡讓原村(群馬県藤岡市)で金銭盗難事件に巻き



佐藤孝之氏

込まれたことに関する史料をテキストに用いて、能登と上州に漆搔商売を通じた交流があったことなどを解説されました。

平成26年度 講座

『加能史料』はいま 開催
平成26年11月16日(日)

当館では、『加能史料』はいま」という講座を毎年開催しています。今回は大正大学名誉教授の黒川高明氏を講師に迎え、「源頼朝文書



黒川高明氏

の世界」と題して講演いただきました。

黒川氏は日本中世史を専門とされ、特に鎌倉時代に造詣が深く、当館の『加能史料』では編纂委員として鎌倉編の監修をいただきました。

今回の講演では、源頼朝文書を網羅的にしゅうしゅう蒐集したことで分かる本物と偽物の違いや花押の変化、文書の存在が確認できない事実から分かる当時の政治状況などを紹介されました。また、政治家としては冷徹な印象の強い頼朝だが、恩に対しては恩に報いる情に厚い人物であることが彼の書状から垣間見ることができると述べられました。

新幹線がやってくる!

3月14日(土)、いよいよ北陸新幹線が開業します。開業にあわせて、子どもの本のひろばでは「乗り物大集合!」という展示を行います。新幹線だけでなく、電車、車、船、飛行機など、いろいろな乗り物の本を紹介いたします。絵本や読み物、図鑑でたくさんの乗り物に出会ってください。展示期間は3月4日(水)～3月30日(月)です。

また、3月7日(土)には、しいのき迎賓館1階「しいのきプラザ」で乗り物絵本の展示や読み聞かせ、乗り物の歌の合唱を楽しむ「しいのきコンサート」を開催します。午後1時開場、2時開演です。申し込み不要でどなたでもご参加いただけます。新幹線開業に向けて、いっしょに気分を盛り上げませんか。ご来場をお待ちしております。

「図書館活用講座」出張所*図書館の仕事⑦ 閲覧室のミニ展示

県立図書館では、閲覧室内で様々なテーマに沿って本のミニ展示を行なっています。テーマはその時々タイムリーなものを取り上げていますが、今年度は「シェイクスピア生誕450年」「ワールドカップ」「黒田官兵衛」などのテーマで展示をしました。3月14日には北陸新幹線が開業するというので、1月上旬から3月中旬にかけて新幹線に関連した本の紹介を手作りのカウントダウンとともに展示しています。また、ビブリオバトル・講演会などの図書館のイベントに合わせて本を展示しています。

展示コーナーには、職員がおすすめする本や、普段書庫にあって目につかない本などが並んでいます。その中から気になる一冊を探してみてください。



原田マハ講演会

人生の宝物 ～私が出会った文学とアート～

日時 3月22日(日) 14時～15時30分 (13時開場)

会場 県立図書館4階 第1研修室

その他 入場無料、申込不要

問合先 企画協力グループ(TEL 076-223-9581)

★原田マハ氏プロフィール

1962年、東京都生まれ。関西学院大学文学部日本文学専攻、早稲田大学第二文学部美術史科卒業。伊藤忠商事にてアートコンサルティングを手がけ、森美術館設立準備室、ニューヨーク近代美術館を経て、2002年キュレーターとして独立。

2005年『カフーを待ちわびて』で第1回日本ラブストーリー大賞を受賞。2012年『楽園のカンヴァス』で第25回山本周五郎賞を受賞。

主な著作に『一分間だけ』『キネマの神様』『翼をください』『星がひとつほしいとの祈り』『ジヴェルニーの食卓』『総理の夫』『翔ぶ少女』『奇跡の人』『あなたは、誰かの大切な人』などがある。

石川県子ども読書月間

4月23日～5月22日

4月23日は「子ども読書の日」です。石川県公共図書館協議会では、この日から1ヶ月を「石川県子ども読書月間」と定め、県内の図書館が子どもの読書の推進のために、様々な取り組みをおこなっています。県立図書館では記念講演会をおこないます。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

演題 「赤ちゃんは、こんな絵本を待っている
—絵本の読み方 7つのコツ—」

講師 後路好章氏(赤ちゃん絵本研究代表)

日時 4月18日(土)午後2時～3時45分

※ 午後2時～2時15分「石川県子ども読書月間」のPR用に募集したイラストの表彰式があります。

会場 県立図書館 2階 県民交流室

定員 70名

申込・問合先: 子どもの本のひろば(TEL 076-223-9587)

★後路好章(うしろ・よしあき)氏プロフィール

1940年北海道生まれ。元アリス館編集長。白鷗大学、明星大学、星美学園短期大学の非常勤講師を歴任。日本赤ちゃん学会会員、国語教科書編集委員(三省堂)。

著書に『絵本から擬音語擬態語ぶちぶちぽーん』(アリス館)、『もうわらった』(教育画劇)、『おじいちゃんと日の出を見たよ』(佼成出版社)、『ぱっぴぷっぺぽん』(ポプラ社)などがある。